

組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名：環境理工学部

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 1. 勉学意欲の高い受験生の確保 高等学校への訪問等の広報活動を継続実施することにより、学部のアドミッションポリシーに対応した受験生確保に努める。 2. 教育の質保証への取り組み 昨年度策定したディプロマポリシーを踏まえ、カリキュラムポリシーの策定に向けて検討を進め、学生の出口での質保証を担保できるよう教育方法・内容等の改善に努める。 3. 実践型環境教育の継続 「実践型水辺環境学及び演習」、「タイ国カセサート大学特別コース」及び「ESD学外実習」の充実を図ることにより、社会から求められている環境人材の育成に努める。 4. キャリア教育および学生支援の充実 キャリア教育、学生相談等の充実を図ることにより、留年者や退学者の減少に努めるとともに、戦略的な就職支援等を通して、就職率の向上に努める。さらに、今後とも就職支援等を継続するため、キャリアサポート室のあり方について検討を行う。	1. 勉学意欲の高い受験生の確保 勉学意欲の高い受験生の確保のため、中国四国地区および兵庫県を中心とした116校への高校訪問、受験生向けの進学情報サイトや女子高校生向け理工系学部進学情報誌への参画、オープンキャンパス時に保護者対象説明会の開催等積極的な情報発信に努めた。 また、教員研修会(4月及び1月)において、本学部入試の現状分析やグローバル人材育成に向けた講演会を実施した。このことは、受験生確保に向けた検討を進めていく上で有用であった。 2. 教育の質保証への取り組み 学科ディプロマポリシーを策定した。引き続き、カリキュラムポリシー策定に向けて検討している。また、教員研修会(10月)において、各学科における先進的な取組を紹介し、学生の目的意識や学習意欲を向上させるための方策について意見交換を行った。 学生の出口での質保証については、各学科において、卒業認定試験や学生の達成度自己点検アンケートの実施等積極的に取り組んでいる。ある学科では平成23年度国家公務員1種試験に3名合格し、3名とも採用内定を受ける等の成果が現れている。 3. 実践型教育の継続及び充実 「実践型水辺環境学及び演習」、「タイ国カセサート大学特別コース」及び「ESD学外実習」の実施を通じて環境人材育成が図れた。また、「ESD学外実習」をカリキュラムに組み入れたことで、今後のより一層の充実が期待できる。 4. キャリア教育および学生支援の充実 学部必修科目「環境理工学入門」や「キャリア形成論」において、学生が卒業後の進路の見通しを持って学生生活が送れるようキャリア教育の充実を図ると共に、環境理工学部キャリアサポート室と各学科クラスアドバイザーが連携し、きめ細やかなキャリア支援を展開している。平成23年度の就職状況は、就職希望者83名のうち82名(3月末現在)が内定している。特にその内の40名(約49%)が公務員に内定しており、学部の特性を活かしたキャリア支援の成果が現れている。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標 1. 大学院と連携して、質の高い課題研究を指導することにより、本学部の研究成果を広く社会に還元し、地域社会や国際社会の発展に貢献する。 2. キャンパス内の水循環施設等における共同研究を通して、実社会に役立つ応用研究の推進を図る。	1. 大学院と連携して、質の高い課題研究を指導することに努めている。 環境理工学部研究報告を電子データにより発刊した。その内容には研究論文のabstractや卒業論文のリストも含まれており、研究活動の状況等について広く情報発信することができた。 2. キャンパス内水循環施設の施設整備が進み、同施設を活用した各種競争的資金の申請や学生の卒業論文の作成が行われるなど、研究面での活用が推進されている。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標 1. オープンキャンパス、高大連携によるキャンパス訪問、高校への出前授業や、スーパーサイエンスハイスクール校への支援協力を通じて、地域の高等学校等との連携を図る。 2. 公開講座、市民講座などを通じて地域住民への貢献を行う 3. 免許更新制度等を通じて岡山地域を中心とした教員への貢献を行う。	1. 前述の高校訪問の実施により連携を図った他、12校の高等学校への講師派遣、10校の高等学校の大学訪問受入やスーパーサイエンス校(岡山一宮高校、岡山県立玉島高校、金光学園、広島大学附属高校、徳島県立協町高校)への事業協力等により連携を深めた。 2. 例年どおり公開講座を実施した。また、工学フォーラム2011に参加し、ポスター展示を実施し、工学の役割や魅力を社会に対して伝えることができた。 3. 免許状更新講習の講義を8コマ開講し、教員の知識向上に協力することができた。 4. 前述の実践型環境教育の推進を通じて、岡山市環境保全課やNPO法人と協力しての地域貢献や、タイ国カセサート大学との交流による国際貢献を大いに果たすことができた。特に、洪水被害に見舞われたタイ国カセサート大学に対する義捐金募金活動を通じて、同大学との交流がより一層深まった。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
【総括記述欄】	
<p>教育、研究、社会貢献の3領域について、目標の達成状況は良好であったと評価できる。とくに、教育領域については、「教育の質保証の取り組み」や「キャリア教育および学生支援の充実」に関し、当初の目標以上の成果が得られたと考えている。ただ、受験生の確保については、今年度も高校訪問などの広報活動を実施したが、一般入試(前期日程)の志願者倍率が2倍未満となった。この点については、次年度に向けて、本学部の認知度を高めるための新たな方策を検討する必要があると考えている。また、本学部の就職率は全国的にも理系でトップクラスを維持しており、それにはキャリアサポート室の貢献が大であるが、就職支援/学生支援については今後とも同室と各学科とが連携した形でその充実を図っていきたい。</p> <p>本学部は平成6年10月に設置され、次年度で18年目を迎えることになる。そこで、現状の教育体制等について点検・評価するとともに、将来構想策定に向けた検討を開始したいと考えている。</p>	